

競技上の注意

審判長 中村喜和

2022年(令和4年)6月1日改訂・実施の日本卓球ルールを適用して実施する。なお、外国選手との対戦では国際卓球ルールを適用する。競技は、男子シングルの5回戦以上、および女子シングルの4回戦以上は7ゲームズマッチで行われるが、その他の競技はすべて5ゲームズマッチで行われる。但し、ホープス・カブの部の予選リーグ、および90歳代の部は3ゲームズマッチで行われる。

ラケット検査に関する注意点

- ラケットコントロールセンターでは、無作為に選ばれた選手のラケットについて、VOC、接着剤を含むラバーの厚さ、表面の平坦性などすべての検査を行い、そのラケットの正当性をチェックする。
- 試合前検査で使用不可と判定された場合、その選手は別のラケットで競技をしなくてはならない。
- 試合直前に交換した別のラケット、試合前検査に間に合わなかったラケット、試合中に破損して取り替えたラケット等は試合後検査となる。試合後の検査で違反と判定された場合、その選手は負けとなる。
- 大会期間中、試合前、試合後を問わず、同一競技者がラケット検査で3回の違反が見つかった場合、その選手は大会から失格となる。
- 選手の希望により、試合開始前までにラケットの自主検査を受けることができる。

1. テーブル、ボール、ラバー、ラケット、試合方法について

- ◎使用球は、日本卓球株式会社(Nittaku) 3スタープレミアムクリーンのみを使用する。
- ◎各競技者(組)は、事前に「ボール選球所」で試合球1個を選んでコート内の主審に渡す。
- ◎選択した試合球が破損等でスペアもなくなってしまった場合、また双方の競技者(組)があらかじめボールを選んで来なかった場合は、主審の保管球の中から無作為に1個を選択して試合球とする。
- ◎ラケット本体が外国製でJTТАが公認していないものを使用する場合には、試合開始前に審判長による確認・許可を受けるものとする。
- ◎ラバーは、JTТАあるいはITTFが現在公認しているもので、公認ロゴが確認できるものであること。
- ◎試合中にラケットが、使用に耐えられない程度に、誤って破損した場合、スペアラケットかプレー領域内で手渡されたラケットと交換して、ただちにプレーを再開すること。対応ができない場合は、失格負けが宣告される。
- ◎ラケットに貼るラバーは、現在JTТАまたはITTFに公認されているラバーで、片方は黒、他方は明るい色のものとする。

2. サービスについて

- ◎サービス開始時には、フリーハンドの手のひらを開き、その上につかむことなく自由に転がる状態でボールを乗せ静止させること。
- ◎ボールを投げ上げるにあたっては、ボールに回転を与えることなく、ボールが手のひらから離れた後、ほぼ垂直に16cm以上投げ上げられ、落下する途中を打球しなくてはならない。
- ◎サービスを開始してから打球するまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、かつエンドラインより後方になくなくてはならない。またこの間、サーバーまたはダブルスのパートナーの体の一部、または着用・所持している物でボールをレシーバーから隠してはならない。
- ◎ボールが手のひらから離れたらすぐに、フリーアームとフリーハンドをボールと両方のネット支柱で形成される三角形の空間領域の外に出さなくてはならない。

3. 競技服装について

- ◎競技服装(シャツ、ショーツ、スカート)は、JTТАの公認マークのついているものを着用すること。
- ◎同じ服装による対戦を避けるため、各試合、明らかに色の異なった2種類以上の服装を準備すること。
- ◎ダブルスを組む競技者は、互いに所属が異なる場合でも、広告部分を除いて同一の服装でなくてはならない。ただし、ショーツ、スカートについては、同系色のものであれば容認される。
- ◎競技服装以外に、サポーター、リストバンド、ヘアバンド、スパッツなどを着用することができる。これらの着用物にメーカーロゴ等の表示がある場合には、ロゴがJTТА公認用具指定業者のものであり、全面積が12cm²以下のものが1か所であればその使用が認められる。
- ◎アンダーシャツは競技服装から大きくはみ出すものは容認されないが、アンダーシャツが若干はみ出す程度であれば着用が認められる。ただしメーカーの商標、ロゴは、外から見えないようにすること。

4. タイムアウトについて

- ◎競技者(組)または指名されたアドバイザーは、1マッチを通じて1分以内の「タイムアウト」を1回要求することができる。
- ◎タイムアウトの要求は、ゲーム中のラリーとラリーの間のみに行うことができる。その場合は、競技者(組)は両手で「T」を示し、ベンチからは用意された「T」ホワイトカードを掲げて主審にその意思を明確に伝えること。
- ◎競技者(組)とアドバイザーの意思が異なった場合は、競技者(組)の要求が優先される。

5. バッドマナーについて

- ◎競技者またはアドバイザーは、相手競技者に対し不当な影響を与えたり、観客に不快感を与えたり、ゲームの評判を落とすようなクセや態度（大声で叫ぶ、汚い言葉を使う、相手選手を威嚇する、故意にボールをつぶしたり競技領域外に打ち出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う等）、審判長や審判員の指示を無視する等を行った場合、バッドマナーとして判断され、相手へのポイント、選手の退場、失格などのペナルティーが科される。
- ◎ポイントが決定した後、すぐにサービスを出さない、なかなかレシーブの構えに入らないなどの「スロープレー」も、競技のスピードアップを無視する行為としてバッドマナーの対象となる。
- ◎主審が選手の行為に対してバッドマナーと判定した場合、最初はイエローカードによる警告、2回目はイエロー・レッドカードを掲げて相手に1ポイントを与え、さらに違反行為が続く場合には、相手に2ポイントが与えられる。さらなる不正行為には審判長が判定を下す。
- ◎試合開始時間に遅れる、理由もなく相手を待たせるなどの行為は、棄権として扱われることもあるので、競技スケジュールを確認し、競技の円滑な進行に協力しなければならない。

6. アドバイス、抗議について

- ◎試合開始前に主審に届け出たベンチに入っているアドバイザー1名のみが選手にアドバイスができる。
- ◎アドバイザーは原則として競技者と一緒にベンチに入ることが望ましい。但し、抗議権はない。
- ◎競技者は、ベンチからのアドバイスを受けるにあたって、競技進行に遅延が生ずることがない限り、ラリー中を除いていつでも、アドバイザーからアドバイスを受けることができる。もし、競技進行を遅らせるような行為が確認された場合には選手に対してバッドマナーが適用される。但し、カブの部、ホープスの部、カデットの部、ジュニアの部についてはこのルールは適用されず、競技者は、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間にのみアドバイスを受けることができるが、練習時間終了時とマッチ開始前の間はアドバイスを受けることはできない。
- ◎最初の違反アドバイスに対してはイエローカードによる警告が、2回目の違反アドバイスにはレッドカードが提示され、そのアドバイザーにはその競技終了まで、競技領域外への退場が通告される。
- ◎抗議は、競技者のみが行うことができる。
- ◎競技者・アドバイザーは、主審または副審の事実判定（入った、入らない、触れた、触れていない等）に対しては抗議できない。但し、ルール上の問題に関しては、審判長に抗議することが認められる。
- ◎同時に2コート以上（複数コート）のアドバイザーとなることを希望する場合は、各試合前に主審に届け出るにより許可される。

7. 幕・旗の掲示について

- ◎大会参加者が掲示できる横幕は、縦1 m、横4 mの範囲の大きさとし、卓球部名が必ず入っていることとし、企業名が卓球部名より大きいものは認められない。
- ◎横断幕に支柱をつけて、座席に立てる、振るなどしてはならない。
- ◎校旗、部旗は縦1.5 m×横2 m以内とし、校章、社章またはシンボルマークは中央に入れ、縦か横表示の卓球部名が入っているものとする。
- ◎縦長位置での旗の掲示は認められない。

8. 競技進行について

競技スケジュールについては、タイムテーブルを参照するとともに、東京体育館では場内のモニター掲示で選手自身の出場する競技の「コート番号」および「試合番号」をチェック・確認する。また、「次の試合」の試合番号が掲示されたら、選手は所定のコートのベンチ横に準備された「次の試合」の椅子で待機し、前の競技が終了したら試合準備をして、直ちにコート内に入るものとする。東京武道館では、専用サイトより確認し、試合が近づいたら出場するコート付近で待機するものとする。

スムーズな試合進行によりしくご協力をお願いします。

9. 一般的注意事項

- ◎進行の都合で、コートあるいは試合時間を変更することがあります。とくに、試合時間が予定時間より早くなっている場合、予定時間より15分前に開始することがありますので、放送・掲示には十分ご注意ください。
- ◎カメラ・ビデオ撮影は、選手が自分のプレーを撮影するために持ち込んだ1台のみ許可します。
- ◎競技フロア内での飲食はできませんが、水分補給については、ペットボトル等キャップのついた飲料水に限り使用可とします。
- ◎競技フロア内での濡れ雑巾の使用は禁止とします。（ベンチの養生マット上は使用可）
- ◎体育館内は全面禁煙です。喫煙は、所定の場所をご利用ください。
- ◎持ち込んだゴミ類はお持ち帰りください。
- ◎貴重品は各自・各チームで管理してください。万一被害にあっても一切責任は負いません。
- ◎主催者は、競技中に起こったケガ・事故については応急処置を施しますが、その結果及びそこから発生する問題について、一切責任は負わないものとします。